

～ひだまり～

第3学年 学年目標

伸ばせ学力 鍛えよ心

第3学年だより

第 20 号

わたしのせいじゃない —せきにんについて—

先日の道徳の授業では、「わたしのせいじゃない —せきにんについて—」という、レイフ・クリスチャンソンによる絵本を題材として、「責任」や「いじめ」について考えました。

「学校の教室で、ひとりの男の子が泣いています。いったいどうしたのでしょうか。」という書き出して始まるこの絵本は、泣いている男の子を取り巻く仲間たちの、様々な考えが、淡々と語られています。

「はじまったときのこと みていながら ぼくは知らない」

「ぼくはこわかった なにもできなかつた みているだけだった」

「おおぜいでたたいた みんなたたいた ぼくもたたいた でも ほんのすこしだけだよ」

「はじめたのは わたしじゃない」「自分のせいじゃないか その子が かわってるんだ」

「先生に いいつけばいいのに よわむしなのよ」

そして、全員が、口を揃えて言うのです。「わたしのせいじゃない」と。

誰しもが、一度は経験があるようなシチュエーション。今までの自信の言動を振り返りながら、自分これから的生活について、思いを巡らせました。以下に、生徒の感想を掲載します。

- ・今日読んだ、空想上のクラスで起こってしまったいじめに対して、そのクラスメイトは責任転嫁をして、「自分のせいではない」と言い張っていて、自分もそのクラスの一員であるにもかかわらず、他人事のように話しているのが問題だと感じました。
- ・多分、いじめる人は、「自分が被害者になりたくない」という心情で周りのことを考えずにいじめてしまっているんだと思う。自分は絶対に加害者にならないし、見て見ぬふりをしない。いじめは、自分に何のメリットもないし、ただただ自分やみんなを苦しめるだけだと思った。
- ・いじめは、実行していない人でも、その中の1人になってしまうことがわかった。
- ・どこまでいっても、人間といじめは切り離せない問題だと感じた。もし将来そういう場面にあったら、助けられる勇気ある人になりたい。
- ・いじめは思っているより身近なものなのかもしれないと思った。絵本の中では、みんなが他の人のせいにしていじめが起きてしまったけど、今自分がいるクラスでは、みんながみんなのことを考えて、いじめが起ころないでほしい。
- ・人としてダメにならないように、「いじめは悪いことである」という意識を強く持つ。また、他人の気持ちを

しっかりと考えていきたい

- ・自分もいろいろな物事について周りに流されてたりしているから、それを変えていきたいと思った。誰が悪いとかじゃなくて、自分が悪いと思えるようになりたい。
- ・いじめっ子は、人をいじめることでしか自分を保つことができないのかもしれない。だからこそ、自分の得意なことを見つけにくくなってしまうんだと思った。
- ・いじめっ子はみんな悪です。そうなった背景があるからと言って、許されることではありません。何でも頑張れる人はいじめっ子にもいじめられっ子にもなりません。
- ・いじめに関わるのは怖いから、直接は関われないかもしれないけど、先生を探したいと思う。
- ・他の人の価値観を認め合おう。
- ・自分もこのような状況で、いじめている人を「馬鹿なことしてるなあ」と思っていたことがあるが、そのいじめられている人を後ろでずっと見ているだけでも、自分も馬鹿なことをしていたのだと思った。
- ・周りに流されずに自分の意思を大切にしたいと思った。
- ・全員が良いほうに流されて、いじめがない集団にしたいと思った。
- ・責任を押し付け合わない。周りに流されないで、一人一人が意見を持つ。人の気持ちを考える。
- ・今日は自分に引きつけて考えられた。ストレスなく学校に来られるクラスにしたい。一人一人が、他の誰かを支えられるクラスにしていきたい。
- ・自分がやってしまったことや、責任を持つことを、改めて考えることができた。人に頼ったり相談することの大切さを学んだ。
- ・クラスでいじめられても誰も助けてくれないし、誰にも言えないだろう。だからこそいじめは良くないし、一人ひとり考え方が違う中でも仲良くする。自分がいじめられたら普通に嫌だから、その気持ちを他の人にもさせない。
- ・いじめの現場を見たら、大人や頼れる人などに伝えられるようになりたいです。
- ・自分には関係ないと思ったり、ただ見てるだけじゃなくて、気づいてあげたり、話しかけたりすることも大切なと思いました。どんなことがあっても、いじめる理由にはならないという言葉が、とても良いと思いました。
- ・自分が実際にその立場になったらどう思うのかな、などの新しい視点で考えることができた。その場の空気に流されたりしてしまうと、後で後悔しそうだから、これからは自分の意見を突き通すことができるようになりたい。
- ・どんなことがあっても、いじめて良い理由にはならないと改めて思った。遠い国の貧しい人の姿を見て、自分のせいじゃなくても、できることを探そうと思った。周りの友達を大切にしようと思った。
- ・まだいじめが完全になくなってはいないけれど、一人一人が意識をしていじめがなくなっていていいなと思いました。また、国同士の争いがなくなればもっと幸せに暮らせる人が増えるのかなと思いました。

- ・先生が言っていた「どんな理由があっても、いじめて良い理由にはならない」と言う言葉が刺さりました。自分はその場にいたら何もできないし、言っても周りは止まらないだろうなって思っていたので、そういうのもいじめに入ってしまうということに気づきました。
- ・自己中心的な考えはやめようと思いました。自分の言動や行動で、誰かが嫌な思いをしてないか、不安になります。
- ・見て見ぬふりをするんじゃなくて、止めたりして良くない考えをしない。
- ・加害者側、被害者に関わらず、いじめにあったときにどうするか客観的に考えることができた。いじめを完全になくすことは難しいけれど、先生に相談したり、寄り添ったり、自分なりの対処をすることができるようになりたい。
- ・気づいたときに行動に移す事は難しいかもしれないけど、寄り添ったり先生に相談する位なら自分にできるのではないかと思った。
- ・嫌いとか、馬が合わなくても、できるだけ関わらないようにするだけで、いじめをしないようにする。
- ・自分が傍観者にならないように気をつけていく。いじめが起きないような雰囲気を作っていくみたい。これからいろいろな人と話をして仲の良い人を作っていくみたい。
- ・自立した人間になり、互いを認め合うことで、いじめの被害者にも加害者にもならないようにしようと思った。
- ・嫌なことをされている子がいたら、勇気を出して「やめよう！」など、声をかけてみる。
- ・今後、もしこういうことがあれば、なにかしら自分のできる事を考えようと思う。
- ・“自分がされて嫌なことは人にもやらない”という思いを、一人一人が初めからもっていれば、そもそもこうすることにはならないと思う。
- ・陰口に乗ったりして、流されるのが良くない。「確かに」とか「それなー」って言ったら、その時点で陰口を言った人と同類。注意するのが一番大事だけど、ためらう気持ちもある。でも、言う。それが、「した子」「された子」のためになる。
- ・何が正しくて、何が間違っているのか、自分でどんな状況でもきちんと判断できるようにする。

今 後 の 予 定	日	予 定	
	7(月)	生徒朝礼 ①「修学旅行コース検討」	※45分時程
	8(火)	①「修学旅行コース検討」	
	9(水)	⑤「夏休みの計画・課題確認・卒業研究説明」 ※保護者会	※再登校16:10
	10(木)		
	11(金)	⑥道徳「ローテーション1回目」	

生徒の感想にもあったように、【いじめは絶対に許されないことである】ということを、再認識できた様子が伝わります。どんな理由であれ、いじめは絶対にしてはいけません。この授業での気付きが、生徒の心に溜まっていき、よりよい学年集団、そしてよりよい学校になっていくことを願っています。